

# 令和8年2月定例会会議録

(令和8年2月19日)

八代市教育委員会

## 八代市教育委員会定例会会議録

- 【開催日】 令和8年2月19日（木）
- 【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室
- 【出席者】 中 勇 二 教育長  
渡 邊 裕 一 教育委員  
早 田 蛭 教育委員  
澤 村 互 寛 教育委員  
丸 山 智 子 教育委員
- 【出席職員】 田 中 智 樹 教育部長  
鋤 田 敦 信 教育部次長  
下 津 恵 美 教育部次長  
押 方 佐地子 教育政策課長  
加 賀 真 一 学校教育課長  
稲 本 健 一 教育部理事兼教育施設課長  
泉 宜 孝 生涯学習課長  
有 働 有里子 教育サポートセンター副所長  
田 島 良 洋 博物館未来の森ミュージアム副館長  
植 田 浩 之 未来の学校づくり推進室長  
永 野 祐 樹 学校教育課指導主事兼指導係長  
岩 本 隆 宏 学校教育課指導主事
- 【事務局】 池 田 拡 次 教育政策課主幹兼教育政策係長  
浦 本 美代子 教育政策課参事
- 【審議事項】 <議案案件>  
① 八市教委議第3号  
八代市教育委員会文書規程の一部改正について  
② 八市教委議第4号  
熊本県八代市立学校管理規則の一部改正について  
③ 八市教委議第5号  
働き方改革の推進等に伴う令和8年度における熊本県八代市立学校等の学期及び休業日の特例に関する規則の制定について  
④ 八市教委議第6号  
第4期八代市教育振興基本計画（案）及び八代市教育振興基本計画（案）のパブリックコメントについて  
<協議案件>

① 協議第 2 号

第 2 期 E d T e c h 推進計画（案）について

< 報告案件 >

① 報告第 1 号

令和 7 年度熊本県及び八代市学力・学習状況調査の結果について

1. 開会 (午前 10 時 00 分開会)
2. 会議録の承認 令和 7 年 12 月定例会
3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告
4. 議題  
中教育長 報告第 1 号 令和 7 年度熊本県及び八代市学力・学習状況調査については、適切な審議環境を確保する必要があるため、秘密会にすることを提案する。  
  
教育委員 全員異議なし  
  
中教育長 報告第 1 号 令和 7 年度熊本県及び八代市学力・学習状況調査については、八代市教育委員会会議規則第 5 条に基づき秘密会とする。  
  
中教育長 本日の議事の進め方について、議案案件の 4 件を審議後、協議案件の 1 件について協議を行う。その後、議事を一旦中断し、各課かい及び事務局からの連絡事項に移る。そして、議事に戻り、秘密会と決した報告第 1 号 令和 7 年度熊本県及び八代市学力・学習状況調査の結果について報告を行いたい。

< 八市教委議第 3 号 > 八代市教育委員会文書規程の一部改正について

- 押方教育政策課長 令和 8 年 7 月から電子決裁機能を備えた文書管理システムを導入し、現行の紙による事務からシステムによる電子的な事務へと移行するに当たり、所用の改正を行うもの。
- 中教育長 電子化すると今までの作業がどのように変わるのだろうか。
- 押方教育政策課長 収受した文書については、今まで紙で供覧をしていたが、文

書をPDF化し、電子決裁をすることになる。起案文書についても、電子決裁となる。

中教育長 いちばんの効果は、ペーパーレスということだろうか。

押方教育政策課長 そうである。

丸山教育委員 押印決裁は廃止となるのだろうか。

鋤田教育部次長 領収書関係はシステムで収受するが、どうしても押印決裁が残る。また、大型の図面や個人情報関連のマイナンバーカードの写しなどはシステムでの管理には馴染まないで、紙で残すことになる。

中教育長 全庁的なシステムの変更に伴うものということでよいか。

押方教育政策課長 そうである。

**【八市教委議第3号 承認】**

＜八市教委議第4号＞ 熊本県八代市立学校管理規則の一部改正について

押方教育政策課長 泉中学校寄宿舎の舎監業務の負担を軽減するため、規定上、舎監業務の対象となっていない学校長等も従事できるよう規則を改正するものである。

渡邊教育委員 私も泉中学校に勤務していたので、校長で勤務したときに、校長は舎監業務ができないことを知った。学校からの要望により、今回の改正が行われるのだろうと想像はついた。大変厳しい状況であるので、みんなで業務をしていくということは大事なことであると思う。だいたい月2回ほど回ってくると思うが、1日仕事をし、部活動が終わった後寄宿舎に入り、また次の日は通常どおり勤務をすることになり、かなりの負担がある。給与面での手当でしか対応できていないので、体力的には厳しいと思う。このような改正は大事なことであると思う。

田中教育部長 寄宿舎の生徒数が女の子1人である。先生方からは、どうにか見直しができないだろうかという声が届いており、負担になっているところである。特に、冬場は日曜日の夕方に子供たちが寄宿舎に帰ってくるので、これに合わせて先生方も出てき

て、泊まる必要がある。今回は規則を改正し、校長先生ほか、皆さんで業務に従事していただくことになるが、教育委員会としては、日曜日の夕方は地元の方をお願いできないかと検討している。予算の関係もあり、まだ地域にも相談はしていないが、今後は相談したいと考えている。2年程前までは、特別支援学級の子供がおり、支援員を市で雇用して宿泊をしていただいていた。今のところ、夜は学校の先生の舎監、市費職員の指導員の2人で対応されている。調理員にも来ていただいているが、人を探すのに大変な苦勞をしているところである。寮生徒数は、令和9年度までは1人、令和13年度には0人になる見込みである。建物は10部屋ある大きい建物であり、効率的ではないと思われるが、どうしようもない。状況を見ながら対応したい。

**【八市教委議第4号 承認】**

＜八市教委議第5号＞ 働き方改革の推進に伴う令和8年度における熊本県八代市立学校等の学期及び休業日の特例に関する規則の制定について

加賀学校教育課長 令和8年度における熊本県八代市立学校等の学期及び休業日を変更するに当たり、規則を制定するものである。

質問等なし

**【八市教委議第5号 承認】**

＜八市教委議第6号＞ 第4期八代市教育振興基本計画（案）及び八代市教育振興基本計画（案）のパブリックコメントについて

押方教育政策課長 令和8年度から令和11年度を計画期間とする第4期八代市教育振興基本計画を策定する。また、計画策定に先立ち実施したパブリックコメントの結果について、意見の概要等を公表するものである。資料により説明

澤村教育委員 パブリックコメントはどのくらいあるのかと思っていたが、4名の方から9件ということで、かなり少ないと思った。教育行政や教員に対しての不信感を最後に上げられているが、教員の不祥事やいじめに対する取組への不満だろうと思った。学校現場では、未然防止等に一生懸命取り組んでいるが、それでも問題が起きたり課題があったりする。一生懸命に取り組んでい

ることは多くの方が理解されていると思うが、どうしてもこのような意見も出てくると思った。ニュースやインターネットで不祥事や問題行動などが全国的に広がり、八代市では起きていないのに、八代市でも起きているのではないかと、隠しているのではないかなど想像される方もいらっしゃるかもしれない。学校での取組、成果があったものはどんどん公表して、子供たちも先生方も頑張っている、家庭の協力も得られていることをアピールすることも必要かと思う。

渡邊教育委員           パブリックコメントの期間は、1カ月弱だったかと思うが、標準的な期間設定なのだろうか。また、公表については、この資料のまま公表するのだろうか。

押方教育政策課長       期間については、少なくとも1カ月程度とするのが通常であると思う。同時期に行った市の未来づくりビジョンのパブリックコメントについても、12月19日から1月12日としており、標準的な期間であると捉えている。ホームページの閲覧数を紹介したい。教育振興基本計画については、293件であった。八代市未来づくりビジョンについては300件ほどであったので、そこまで差はない閲覧をいただいている。件数が少ないと思うが、前は1件であった。また今回は素案の段階で、関係団体にご意見をいただくという取組を行ったので、関係団体や市民の皆さまのご意見は反映できていると思っている。

公表については、この資料のまま公表したい。パブリックコメントの結果の公表については、様式が市で統一されているので、それに沿ったものである。

渡邊教育委員           意見の『誰一人取り残さない教育』についての項目がある。教育振興基本計画では、「取り残されない」となっていたかと思うが、統一されるのか。

押方教育政策課長       教育振興基本計画の表記と合わせ、「取り残されない」としたい。

中教育長                議会への報告など、今後のスケジュールはどのようになるか。

押方教育政策課長       3月の八代市議会において、第4期八代市教育振興基本計画とパブリックコメントの結果を合わせて報告する。

【八市教委議第6号 承認】

<協議第2号> 第2期EdTech推進計画（案）について

押方教育政策課長 EdTech推進計画は、第1期の計画期間が令和4年度から令和7年度までの4年間であり、計画期間が終了することから、令和8年度からの方針を定めるため、第2期EdTech推進計画（案）を作成した。本定例会で協議をいただき、ご意見を踏まえ、3月定例会で議案として提案したい。資料により説明。

早田教育委員 資料については、これまでの4年間の取組、データを用いた成果と課題、また、今後の取組について示されておりよく分かった。この4年間、取組を見ていたが、特にこの1年は学校でどんどんICTが活用されていると感じた。金剛小学校の授業では、ICTが子供たちの学びにつながる授業が八代市でも行われていると感じた。ただ、この資料を見ると、学校間や教職員間で意識と活用状況に差があること、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に対応した授業改善が課題であることが分かった。普段の生活の中で感じているのは、低学年のICTの活用が、子供たちの学びとどう結びついているのか、ICTを使うのが目的ではなく、手段としてどう使っていくのかを第2期の計画に取り入れていかなければならないのではないかと思う。低学年については、紙のほうが内容の理解を深められる、タブレットを使うことで注意力が散漫になる、また、6年生では卒業文集をChatGPTを使って書いてしまったということ聞いた。今後、デジタルで行うこと、対面や手書きで行うことの基準が示されると、保護者としても安心できると思う。また、ICTを通して子供たちにどんな力を付けていくのかなどが示されると、さらに良いものになるのではないかと思う。

押方教育政策課長 今のご意見を踏まえて、教育委員会内で検討したい。

澤村教育委員 説明を受け、だいぶ進歩していると感じた。成果と課題がはっきりしており、今後の取組がしやすくなったのではないかと思う。ICT支援員の支援のあり方について課題として示しているが、現在、ICT支援員は何名でどのような方なのだろうか。

押方教育政策課長 本市のICT支援員は10名である。40校を週1回程度は必ず訪問できるような計画を立てて、支援をしていただいている。文部科学省は4校あたり1人という目安を示しているので、本市においては、国の目安に対応できている。ICT支援業務は委託としており、支援員については委託業者の職員である。

澤村教育委員 直面する課題の中で、ICT支援員の支援は「トラブル対応中心」から「授業改善・学校を支える伴走型」への転換が必要とあるが、そのとおりであると思う。トラブル対応には専門の方が強いと思うが、授業改善にどのくらい支援できるか少し難しいのではないかと思う。ICT支援員の研修などは行われているのだろうか。

押方教育政策課長 市が主体となって研修等に行っていないが、支援員から学校に対するサポートなどの報告はいただいております、情報共有は行っている。

澤村教育委員 各学校に週1回程度の頻度で支援があるということだが、今後、「授業改善・学校を支える伴走型への転換」とは、具体的にどのような支援をしてほしいという案はあるのだろうか。

押方教育政策課長 ICT支援員は各学校を訪問しているが、先生方のサポートに専念されているように思う。授業のデザインは先生方が行われるので、先生方から求めがあればサポートをするというような感じである。ICT支援員は豊富な知識があり、いろいろな学校を訪問することで実践を把握している。持っている知識などを積極的に学校に還元できるような対応をしていただきたい。学校の意識を変えていただく必要もあるが、委託業者とも今後検討していきたい。まだ具体的な案はないが、今後このような方向で進めていきたい。

中教育長 非常に大事なところであるので、よろしくお願ひしたい。

渡邊教育委員 とても分かりやすく、勉強になった。ICT教育推進係を中心としたこれまでの業務成果が表れてきていると思うが、子供たちの様子を見ながら、いろいろなトラブルを見聞きする。学力ももちろん大事であるが、情報モラルの面で、とても心配な状況にあるのではないかと思っている。この指導についても、学校でもっと充実してほしいという思いがある。また、学校訪

間で、いろいろな活用方法を見せていただいている。一つ一つの授業については、担当指導主事が把握していると思うが、学校全体としてのICTの活用状況は、どのような形で把握し、評価、フィードバックされているかを伺いたい。

本田教育政策課指導主事

ICT支援員がそれぞれの学校を訪問した後、報告書が提出される。端末の修理が多い学校、よく活用している学校などの報告がある。現在、どこの学校が何回使用しているかを集計し、整理をしたいと考えているが、報告書がそれに対応していないため、1月の報告書からそれができるような形で報告をしていただいている。これまでの報告書で、どこの学校が授業で使用している、何回くらい使用しているかなど、おおよそ集計をしているが、具体的、客観的なデータとしては、1月の報告書がどのような形であがってくるのかによって集計をしていきたいと考えている。今のところ、大雑把な形でしか把握はできていないという状況である。

丸山教育委員

子供たちと先生との間にICT活用の認識に差があるということで、大変興味深いと思った。子供たちは、もっと使いたい、使えるのではないかという期待値がある中での実際の授業状況との差ではないかとも思う。ぜひ、この差が縮まるよう取り組んでいただきたい。また、大型掲示装置の整備について、大事なことであると思うが、使い方として、教材の一斉提示にとどまらない形で活用していただくことを徹底されると、さらに有効に活用されるのではないかと思う。今度、実践ガイドを作成されるということなので、内容がぜひ充実したものとなるようお願いしたい。

澤村教育委員

個別最適な学びの推進に向けたデジタル教材の整備について、英語教育充実に向けたAI英会話ソフトウェアの試験的導入とあるが、今後、導入するということだろうか。試験的に導入されているのだろうか。

押方教育政策課長

英会話アプリELSAを今年度、第一中学校と第八中学校に試験的に導入したが、現場からの意見を踏まえると、授業には使いにくいということで、本格導入は難しいと判断した。ここで予定しているのは、小学生でも楽しみながら、ゲーム感覚で取り組める無料のアプリを、端末の一斉更新に合わせて導入したいと考えている。英語が好きと思ってもらえる子供たちを増やす一つの取組として活用したい。

澤村教育委員

授業ではA L Tがいるので、生の英会話ができて良いと思う。先月の県の研修会で、英語教育に関して実践発表があり、そこで、A I英会話ソフトを使っている場面が紹介された。これは、学校ではなく家庭で学習するには大変良いツールであると思った。いつでも好きな時間にできるし、A Iとどんどん会話を交わすことでレベルを上げることができる。学校現場ではなかなかできないことであり、家庭学習で使うと、子供たちの学力、英語に対する得意意識を上げることができる強力なツールであると思う。このようなアプリを紹介したり、導入することも大事だと思う。

下津教育部次長

今回、試験的に導入した第八中の授業を見せてもらった。例えば5分間くらい、子供たちは一斉にタブレット相手に会話をするのだが、子供たちは発話することに恥ずかしさがあるように感じた。声が小さく、抵抗感があるように思った。動画で、子供たちがヘッドホンをつけ、マイクでA Iと対話をする姿を見た。周りの声は全く聞こえず、対パソコンというかたちであり、自分の発音が悪かった場合は、繰り返しやり直すというものであった。子供たちが発話することに恥ずかしさがあることが、大きな壁であるのではないかと思った。アプリを導入することで、家庭で自分だけで練習する機会を確保しつつ、授業の中でも効果的に取り入れられるような方法を提示していきたいと考える。

中教育長

たくさんのご意見をいただいたので、それを踏まえて、来月、議案として提案したい。

(議事一時中断)

## 5. 連絡事項

教育政策課 令和8年度教育委員会定例会開催予定  
学校教育課 卒業式(中学校 3/7、支援学校 3/11、幼稚園 3/19、  
小学校 3/24)  
生涯学習課 社会教育委員会議 (3/17)  
公民館運営審議会 (3/19)  
せんちょう分館再開記念オープニングイ  
ベント (3/21)  
教育サポートセンター  
「くま川教室」保護者会(2/20)給食試食会(2/25)  
教育論文・教育実践記録表彰式 (3/10)

令和7年度「くま川教室」閉級式(3/16)  
未来の学校づくり推進室  
再編方針についてのパブリックコメント(2月  
末まで)  
事務局 3月定例会日程確認(3/25 14:00～)

〈秘密会〉

〈報告第2号〉 令和7年度熊本県及び八代市学力・学習状況調査の結果につ  
いて

〈秘密会につき、会議内容は省略〉

6. 会議録署名委員 渡邊委員・澤村委員  
の指名

7. 閉会 (午後12時25分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

---

---

記録者

---